

ハスヌマ通信 第5号

牧之原市や国政について考える個人紙

2021.10.1 発行

発行人 板倉直壽 (なおひさ) TEL/FAX 0548-29-0961

住所 〒 421-0411 静岡県牧之原市坂口 2142 番地 1

印刷所 アスクル (株) 東京都江東区豊洲 3-2-3

○「ハスヌマ」は私の旧住所の「字ハスヌマ」と、家の屋号のハスヌマからとっています。

○ハスヌマ通信はインターネットでも、「ハスヌマ通信 板倉」で検索して頂くとご覧いただくことが可能です。

1、第5号の主題

(1) 現役市議会議員のことを知る為にも、全市1区の選挙にするためにも、牧之原市のホームページに、議員の紹介をもう少し詳しく書いて欲しい。

牧之原市のホームページに議員紹介の欄がありますが、この議員はどういう人のだろうと思って見ても、顔写真、氏名、住所、電話、生年月日、当選回数、所属会派など、非常に簡単なもので、物の考え方や活動記録は全くわかりません。インターネットで調べてもほとんど情報が出て来ない方が大半です。そこで、市のホームページに、基本的な物の考え方、議会での主な質問や発言内容、その他の主な活動記録が書かれていたらいいのと思うのは私だけでしょうか。

現在の市議会議員のほとんどは地域(町内会、区)の推薦を受けて出て来ている方のように。もし今後もそれでいいのなら、現在ある議員紹介で十分かもしれません。しかし、全市1区、つまり、議員を地域(町内会、区)の代表というより全市の代表として、地域を越えて選挙しようと思えば、いろいろな議員情報が必要になると思います。一般的な選挙では1つの選挙区に数人の候補者がいて、その1人を選びますから、幅広い情報が必要ですが、それと同じです。また、現役議員の場合は、市民が相談したいときに、誰に相談すればいいのかを判断する材料として議員情報が必要です。その意味でも詳しい議員情報があると便利だと思います。議員自身と議会事務局の努力と協力で作成していただくとよいのではないのでしょうか。

(2) 福祉国家と消費税、そして福祉都市、牧之原

半世紀も前の学生時代、私は北欧型の福祉国家が1つの理想ではないかと漠然と考えていました。スウェーデンなどは福祉が充実している分、税金が高いと言われましたが、この高福祉高負担は仕方がないことと思いました。

今、日本では消費税の税率引き下げや廃止を訴える人達があります。その理由は、消費熱を冷やして景気が悪くなるからとか、庶民の財布には負担だから、などが上げられると思いますが、私はその考えには反対です。

まず、「景気が悪くなるから」ですが、消費税は悪だ！と、あおる人達がいて、それが責任のない販売者側には妙なうしろめたさを生じさせて、消費税を肩代わりさせる力が働いたり、消費者には損をした気分を植え付けて、消費を抑制する力が働いたりしていないのでしょうか。しかし、消費税は悪ではなく善であって、これで世の中全体がお互いに支え合っているのだという積極思考になれば、世の中はよい方向に変わるのではないのでしょうか。

また、「庶民の財布には負担」ですが、通常は、消費税で生活が行き詰まることはないと思われれます。そこで、大事なことは、税の配分、つまり使い方です。一般的な市民が、自分が負担している税金や保険料等よりも多くのものを国や自治体から受けている、税の配分を受けている、そのおかげで自分の個人生活も社会生活も豊かになっているという実感を持てるようにすることが大切であって、それをするのが政治の役割だと思います。私たちはその配分の部分をしっかり監視する必要があると思いますし、一方で、自分達はどの程度の恩恵を受けている



のかを冷静に考えてみる必要があると思います。

医療や福祉や年金だけでなく、道路も公園もその他の公共施設にも税金が投入されていますから、その恩恵をどれだけ感じ取ることができるかが大事だと思います。また、道路も公園もその他の施設も、1人1人が少しずつ出し合った「**お互いの共有物**」と思えば、私たちは多くの物を得ている気分になれないでしょうか。また、頻りに散歩する人、ジョギングする人には、道が、街が、付近の山や畑が、自分の庭のように見えないでしょうか。自分1人の力ではとてもこんなに大きな庭は手に入りません。大阪城は私の庭よ、と言った人がいますが、税金が投入されているものは皆、「**自分のもの**」と思えば、心も豊かになるような気がします。

消費税は、働いていない子供、老人、生活保護を受けている人、その他全ての人が負担し、まさに全国民でこの国を支えていることの象徴ともいえるもので、そこも消費税のよいところだと私は思います。貰ったお小遣いは子供自身のもの、年金もその人のもの、生活保護費も貰った人のもの。みな自分のお金から消費税を払うのですから、立派な納税者です。外国籍の方々も含めて、この国に暮らす全ての老若男女によってこの国は支えられているのです。

牧之原市も消費税その他の税金を上手に配分して、目指すは**福祉都市**だと思います。

(3) 戦争体験がないからこそ、戦争を語り継ぐことができる。

画家の**丸木位里氏**は、おどろおどろしい「**原爆の囀**」(第1部～15部)の作者として有名ですが、妻の**俊氏**と共に32年間かけて描いたそうです。私はなぜこのような悲惨な絵を描き続けることができるのだろう、気が滅入ってしまわないのだろうかと、長い間不思議に思っていました。あるときテレビの実録番組を見て、この謎が解けたような思いがしました。

丸木氏には妹がいて、**大道あやさん**といいますが、この方は60歳になってから絵を描くようになり、画家としても活躍されたそうです。この大道あやさんは広島原爆の体験者で、丸木位里氏はあやさんから原爆の話は聞きましたが、体験者ではなかったのです。一方、原爆体験者の大道あやさんは、自分も画家になった以上、原爆のことを描き残す責任があるのではないかと考え、91歳になって初めて原爆の絵を描き始めました。その様子をテレビで放映したのですが、描けば描くほど辛くなり、9枚まで描いたところでとうとう先に進めなくなりました。そして、うなるように「もういい」と言って、描くことをやめてしまいました。番組はここで終わりましたが、その後は1枚も描かなかったそうです。20年ほど前にテレビでこの様子を見たとき、私は、戦争のことは体験していない者こそが語り継ぐことができると思うようになりました。体験者に語らせるのは酷だからです。そして、体験していないから語る資格がないという思いは消えました。それにしても、各地で語り部として、長年戦争体験を語っている方、語ってきた方は本当に大変なことをされているのだと思います。

ところで、では自分は何をしたかですが、特に何もしてませんでした。せいぜい、戦争について読んだり、考えたりする程度でした。そして今、私は歳をとるほどに、戦争で亡くなった方々のことが気になるようになり、前をよく通る坂部区の慰霊碑に花がないことに気が付いて、4、5年前から週に1、2度、自分で育てた花を供えることを勝手に続けるようになりました。みなさんのことは忘れていませんよという気持ちを表すために、そして、自己満足のために。

+++++

■後書き■ 最後までお読み下さり有り難うございます。2巡目のチラシ配布をしていると、ある家の郵便受けに、「不審な怪文書の配布、受領を拒否します」と印刷された黄色のテープが貼られて、プラスチックで丈夫に表装された、ハスヌマ通信第1号が、ビスで止められていました。一瞬、目を疑いましたが、長ければ1ヶ月半も、「怪文書」扱いされて人目にさらされていたことになります。郵便受けは敷地内にあるとはいえ、不特定多数の人が出入りする場所です。私はこの人に抗議の手紙を送りました。破り捨てられていても文句はありませんが、これは理不尽な行為で、黙認するのはあとあとよくないと思ったからです。